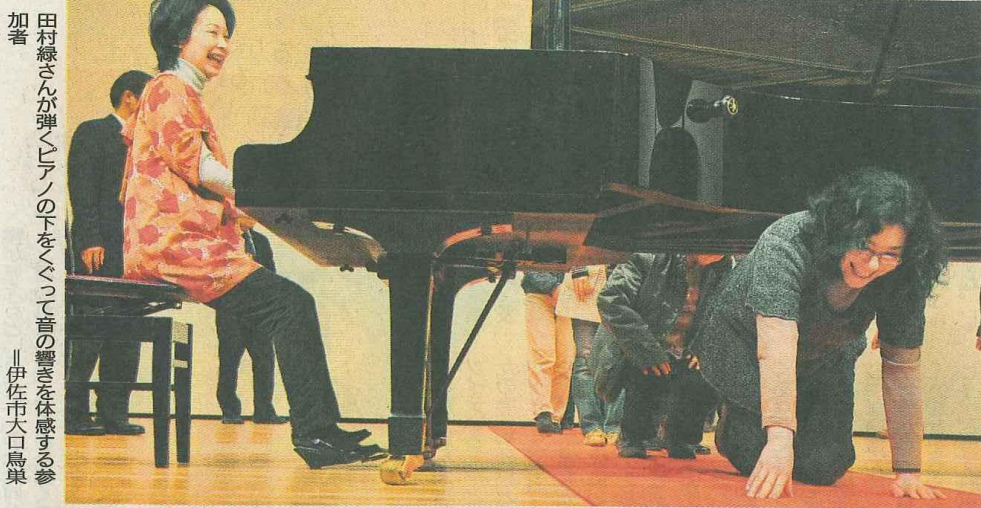


平成 23 年 2 月 8 日 (火) 付 南日本新聞



田村緑さんが弾くピアノの下をくぐって音の響きを体感する参加者  
 伊佐市大口鳥巢

## 市民ら20人「音色探し」体験会

# 音楽ホール 多彩な響き

伊佐市文化会館

音楽ホールの持つ魅力を伝授する「音の響き体験ホールワークショップ」が伊佐市大口鳥巢の市文化会館であり、市民ら約20人がホール内を自由に移動しながら、音楽の多彩な楽しみ方を体感した。

市文化会館を有効活用し、手作りコンサートで市民に音楽の魅力を発信している「いさのおんがくたい」実行委員会の企画で1月28日あった。

財団法人「地域創造」の公共ホール音楽活性化支援事業協力アーティストを務めるピアノスト、田村緑さん、東京都が講師を務めた。

参加者は舞台上で田村さんが演奏するピアノの下をくぐったり、ピアノの周りに寝そべったりして、体全体で音の響き方の違いを感じ取った。田村さんは「ホール内には直接音と間接音が飛び交っていて、場所によって聞こえ方が違う。自分の好きな場所を見つけてみて」と指導。

参加者は1200席あるシートを移動しながら、自分の「ベストシート」を選んだ。平出水小学校の涌井

英明教頭(41)は「ホールの場所で、こんなに

音の聞こえ方が違うというのは驚きだった」と話した。  
 田村さんは26日午後2時、同文化会館で開かれる「おんがくの種まきコンサート」に出演する。ワークショップ参加者が選んだ席は「お勧めシート」として会場入り口に掲示される予定。